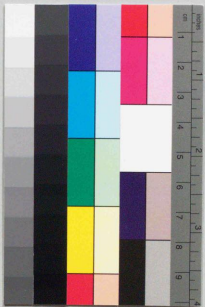


武藝百人一首

完



手1500

愛知県文化会館

511195

A789
リ
2

正

正

物本書は草草仙果世上の幼童達を奉養する自約の本忠意をその門より出親身を
 さ着いたるを由あるに義常も中書を奉養する料の下故不常の徳も錯を云い婦人巨
 わり旅客の義行の節間のれかり盗賊の智の癡人の信の忠身と云ふ心より出ま假よまひ
 てとせざるわい勝たり是五常の上よ立さゆもあてんとて片時中をたらし此三通
 を行ずもい難く吉米中を全するもの多かりたりて今書はの需も應じ且國のと
 まはる中書の人一更し頼め馬傳よりて朝誦の習得をも倉皇間の愚換れ全行の
 の漏漏行の人も入ると私を虚殺を心む悉く離あり賢軟甚拙陋ありものり万一見お
 ありて其人の自叙をふ思ひひと僕も漫吟あり馬像本拙ふ會画工の意匠を傳ふ
 於も方寸紙綱結其拙書を記すものと委曲ハ他日別巻よりしえん

蜂坊前



十作

籠中の節

柳葉の節

金葉

柳葉の節

柳葉の節

柳葉の節

柳葉

さくち大の製造そのむくおて秘す所をね多く悉く肥す小味かこわい
 その大袋どののこつた夫も小なへつて入るのありて人の肥瘦大小不問く
 道とありて焼く所のはよく兵と矢りまんかまきこてたへきと願ふその
 可へ挿りてきて系すへ一用札の注ありて六寸長と上制といひ六寸す
 長と中制といひ六寸と下制といふと入るなり 節といふより智ひあふへ

鎧

山鏡

印附の銀

柳

水返

逆輪

胆金

血酒

石突

ちんすこ ちんすこ ちんすこ
 檢へ上古の鉞ありてそのおさまりあり月紋とて上代鉞といふ山紋とて曲鉞と
 りん支鉞とてと立様小作の轉すこと比類といふ細文とて十文とといふ

とさうまをすす ちんすこ ちんすこ
 純檢の即直檢をそのおのて長許とて成大方といふ及の長さなと小鹿す
 兵具粗澁あり作の長さ六寸分或は七十小作あり一尋濃武者と突心の利
 用ありといへりともいふ金の檢の長を元年赤松満祐と奔のと死する所在と身
 銘んが利 劔と竹の先かけ怪き所とて身ねるむ脚く長身と利ありて
 劔とて括とていふ山鉞とていふ牙とていふ野夫傍作とて用ひさう長
 柄とて他王役りてつひ武具ふるまると驚送考浦小と先さう

射法 快物



尺六寸半
 あり八寸の抄
 とら射小身にてさちさちり
 林改の長史射日らん九半とら
 別小身ひあひの長と九のり後
 とらんもの法式あり

單鹿

單鹿

單鹿

單鹿



圓物

圓物

圓物

圓物



山崎宗信



射術

薙刀

山崎宗信

山崎宗信



射術

刀術

山崎宗信

こと經津主の神の今々の香取の神
 多うもよまこの二神とて刀作
 の祖と作さるるの八咫原中
 五小降すさるる後で十十程の
 扱とて五平田依の小汀之洲小
 作もまふつとて大己貴の神小對
 ざの治と作すこのまを世にま
 皇母ふささるるやまをさるる
 らの扱とて殊見んとその治と
 安さるるあり大己貴の神小對
 さらるる用とてその扱のたさるる
 神とて殊一を治とて同のさるる
 殿小し入るるの扱とてりて
 らの二神とて刀作の
 祖とてさるる



京都の御川小住をさるる
 通達せり先一を伊おの
 伏律師三代の孫古岡
 陰陽博士主祝頭安倍
 長が御人となり天文地
 究む晋美推歩の神小料
 曾て無法とて弱と鞍馬の
 安天小初理その為小連ん
 現小あり左府頼長余知
 六箇三四各とて於小無法
 あつて天下救世の作と作
 かさるる



牛若丸鞍馬小在少一つぼる
 僧正正谷谷天天約約ののぬ
 初初ととああびび世世小小ままひひななまま知知
 法法早早煉煉ををばばああんんととへへりりととまま
 ありあり六六輪輪三三界界とと故故ららんんととすすまま
 とともも鬼鬼惜惜くくゆゆええ故故れれ女女
 皆皆音音雅雅とと契契ぞぞ竟竟小小のの
 書書ををばばああんんととへへりりととまま
 若若夷夷丸丸小小ののんんととののれれとと吉吉
 りりひひけけままはは比比目目移移
 かかくくととうう様様びびととああぐぐ
 このこの系系ふふととああんんととまままま
 ここににああんんととまま
 ととううとと送送りり乃乃ととああんん

堀川の鬼鬼ががああんんととまままま
 雲路雲路のの下下地地ののととああんんととまま
 ををああんんととまままま
 岩物岩物のの堪堪海海とと異異各各皆皆長長法法
 武武界界人人小小勢勢ららひひののれれ鬼鬼
 以以ててああんんととまままま
 法法ととああんんととまままま
 語語ららひひ牛牛若若丸丸ととああんんととまま
 天神天神ののつつぶぶ小小勢勢ららひひ牛牛
 ののああんんととまままま
 るる牛牛若若丸丸小小勢勢ららひひ牛牛
 るる牛牛若若丸丸小小勢勢ららひひ牛牛
 切切りりととああんんととまままま
 ててああんんととまままま



披ふるの伝とてつゝのりつゝ
 舟りや武言小自ひは左のト
 侍とりのの流とびく自ら無勝
 流と引し法を傳所とて處の
 渡とて争合の船も存入の土共
 法も唐言ひし傳とてせざる
 争論もあつて合とてまんととせ
 岸も人といひはげしく陸へあつ
 らひし集まるとは性おも申んあ
 唐書のお小集と開ありは必
 て試合せしそつていへば時武王
 兄も亦かり三六府ての合を抜く
 まつと傳水掉とてり船とて
 無手勝刺ことと奪つて船と
 む山田柳かどおるるとらん



てんてんてんてんてんてんてん
 藤原康平とて苦い相初めを北
 條氏康平はふ幼き刀槍の術
 好し習ひし傳とて交情とて通
 夜さしし人の將は小意の神の
 興とて教つて後京於小勢も
 内と判友も知せる常小羽
 毛とてよそのさる画りて夫物の
 こ小神を流のせ人處と小羽の
 傍身とてむ傳中こと合
 えて霞とて殺ひその遺恨と
 て合ひし大勢のゆせして
 親と射り傳鬼流とて伝て
 一切赤せどもおひと茶餅も
 不討あ後宗もなうと茶餅も
 宮と斬を常陸のまはまお存



相助摩合の人なり地福との檀
 越さ小より屋そのすおれ入
 ける中中條刀檢の物とぬ
 使さるのこのいふぬあふ及
 日夜心と香ののちも地福
 持の向宿不意音とのあゆめそ
 刀檢の物不辨中茶が執事
 てはそその物と授けんとの中
 條大給ひ慈音お授ひて登
 衣ことをなす年正経にその
 無を式とびやうこの慈音の執事
 物デの山屋おて移り物現多
 ら物と授けずとらん転ふ不
 移戸の袂屋を日向の景中
 一畠田物出のり



三品牛津の香と若年より女
 淑と好く大の軍界小軍兵且
 刀檢の物不辨多くせ武藝と
 移さる男その奥上と究やる
 ひる一時里入重中小大佐と
 無ひしその徒荒まるとそ
 小及る兵淑不助小判
 苗んことをむふ助助か
 釋せ兵檢と持てぬ荒徳と
 遷居との物さひ人の業
 なも兵の時武田晴信小僧と
 伴ひてら小本りお授の物
 る兵渡志もく武功とあ
 りそとの人とも運あて前中
 高の戦ひ小討死せう



鐘鐺自供云 夢中茶漬の中
 自と梅め 甚だと仔細なるが
 者、袂合と多しと二十三度不
 及は 袂め不測の 袂と云ふ門
 人、袂多あり、中、神子、上、典、膳、と
 その形、不まは、ゆふ、善鬼と云
 の、刀、小、波、ひく、ま、ま、小、形
 小、連、一、帯、小、刀、あり、二、三、帯、ひ
 て、は、之、を、持、應、ひ、ら、小、刀、欠、斃
 膳と愛し善鬼と憎しと云ふ
 害せん、との、内、密、ふ、典、膳、は、拓
 き、善、鬼、と、言、す、人、物、と、も
 あり、御、行、は、越、う、因、て、客、矣
 あり、夢、相、向、の、袂、と、云、ふ、と
 討、た、し、く、ま、知、は、を、換、く

伊藤一刀秘

景久



照る
 神の
 女子の
 夢

夢
 女子の
 夢

神子と典膳忠明

神子と典膳忠明
 二人と北つけ 昔小瓶刺の刀
 名刀あり 汝は、小瓶、く、れ、れ
 とも、刀、く、人、小、典、膳、を、よ、る、の
 中、あり、試、合、多、す、は、括、う、ま、小
 長、え、ん、ら、人、物、は、茶、と、典、膳
 痛、か、る、想、刺、の、術、を、以、て、善、鬼
 鬼と斬る、刀、あり、は、典、膳、小、瓶、刺
 の、刀、を、飲、く、ま、う、神、子、上、東、東、東
 聖、大、不、ま、月、れ、一、刀、欠、ハ、典、膳、小、瓶
 ま、り、あ、る、夜、半、小、瓶、の、り、とも

ん、刀、一、刀、欠、く、こ、と、一、刀、欠、と
 回、答、刀、を、以、て、立、お、い、げ、支、う、う
 性、方、生、死、と、ま、ん、い



沈水
 神子と典膳忠明
 夢
 女子の
 夢

清水ハ不條氏康と居之る武女
 勢力ハ絶えず且能ハ清水ノ事ヲ
 然ルモ人常カシク其ノ所ニ在リ
 山ノ上ニテ活クコト米ヲ賣ル
 牛ヲ賣ルコト其ノ後海ニ濱ニ
 漁ヘ爾外シルコト其ノ所ニ在リ
 コノ牛ノ牧種ノ事トモト米トモ
 救ヒアヘンシトモト及バズ
 老人ノ事トモト曲惑ノ伴トモ
 此ノ妻ノ事トモト牛ノ頭ノ下
 ノ事トモト米ヲ賣ルコト其ノ所
 引取ケテ其ノ性力則チ其ノ所
 牛ノ頭ニ於ケルコト其ノ所
 其ノ所ノ所ニ於ケルコト其ノ所
 強力トモト名トモト其ノ所

此ハ如賀ノ源未練不條ノ源未練
 ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 防戦ノ術ヲ其ノ所ニ在リ
 一ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 侍トモト其ノ所ニ在リ
 合心ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 能ク其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 厚ク其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ
 其ノ所ノ事トモト其ノ所ニ在リ



奥村助左衛門



武井哲百首

安元元年の冬、長門守の元
 路(守)と上野の松井田兼
 主従の物となりし忠勇不
 老(四天王)と号するの元也
 義盛(山陰中納言)十三代の
 彼胤(元)父俊盛(河院)の
 北面より伊勢河島(佐々
 依て氏)とせし、四才の時より
 伊勢守景綱(其地)成相
 領せしと云ふこと申(武)
 と、兼(松井)田(佐々)く、兼
 師と名(かく)民間(不
 妻(清)よりいへし也
 義経との器量(と)足(知)り
 家臣とあせり



永録(年)間の(人)月(と)功(の)れん
 長野(信濃)守(不)仕(と)其(其)
 輪城(小)ありし(愛)湯(陰)流(の)
 乃(林)不(妻)も(自)然(其)夢(と)
 得(さ)り(後)是(小)工(夫)と(り)ん
 在(肝)あり(林)流(と)ん(永)
 録(六)年(長)野(信)濃(守)信(兼)
 の(あ)ら(む)と(信)女(上)衆(と)
 多(く)と(不)仕(え)よ(と)云(ひ)
 け(し)と(再)び(仕)官(の)事(を)し
 せ(り)と(佐)三(を)修(め)り(と)叙(任)
 と(弘)明(と)と(寛)平(と)と(り)
 語(ら)ぬ(と)應(る)れ(あ)ら(ぬ)者
 その(名)と(り)る(若)年(神)陸(統)
 の(元)概(打)く(その)名(高)し



式上漢百首

十九

何國の人とんとあつた刀折と
 名も初少より竹野せし者
 その跡本かいてひておつては
 まで控居し一筋白雲の不變
 波已曾神と心小むるも
 邪その丹誠とあはててま
 ちや白髮の老翁忽然とあ
 鐘石のひ小聲の秋もたか
 鐘之助ふひ波刀林の變
 とくめんと丹心をこりて開く
 その再処と殺らんを以て終
 とあてえよとつしむる
 川崎月とわい見とあつて
 忽地抄とさくら東軍流と
 一々名とあつせん



倫之助が五代の孫ともいふ
 流の達人とてその女流と
 法よと竹野とて武者の流
 びうとあつた細かきと候
 ちその人を殺す附く門人
 ま同流の月と見とあつて
 まんとするもよけつた
 法とあはてつたの忍の未か
 と大木殺つてその流三人
 切て奮撃すといふも教
 多勢あつて折れず捕られる
 罪をとつて赦はされず
 斬つて仕て度く門下とあ
 大木殿名をとり



播磨の人を斬りて世に名を
 無二奪りて一十手の子を
 取名はつて文一と云ふは
 常の用いあつたては下御
 ると云ふはつて十手の利
 あり十三支のつて試合に
 十余名の内蔵不首と云ふ
 関ヶ原下御山神宮本武藏
 政石流と号は城をかく忘れ
 ざるの多し肥後熊本の味下
 少流と号は墓志と建ふ流
 者あふ合謀小へ斬りてし
 佐々木岸柳との試合大なる
 討つて実小手に天下小
 双ひあ

此人多き兵法者あはす名天下小
 かなこ小あ花門の体沖中小舟
 物とのあり宮本武藏との
 少流と号は岸柳ハ物ヲ神と
 名けるは余の太刀とて武蔵
 ハ舟の被と月も余あはす武
 者あらはし余とて不隔手丸
 ありとの他岸柳島といふを
 柳とて武合と物といふはつて
 らんとて舟とて小舟坊群像
 あはは岸柳のなぞと聞ふ船頭曰
 とは武蔵岸柳の試合とてんわ
 りと岸柳史記とて人の板にす
 早しうのよるし小舟とて物とて
 て連まんははつてを竟小にす

岸柳武蔵
 石流
 佐々木
 おそこの老をり



佐々木八雲
 の
 おそこの老をり

佐々木八雲
 石流
 岸柳武蔵
 佐々木八雲
 の
 おそこの老をり



佐々木八雲
 の
 おそこの老をり

京都の人にて、説小治坊ありと
 あり、尚とて、依園名伏との
 りのふ、あ、竟、不、流、と、さ、ら、ま、室
 所、わ、車、が、の、呼、籠、と、あ、り、あ、り
 流、い、鬼、法、服、の、流、ゆ、を、平、八、流、の
 末、と、を、鬼、ゲ、オ、ウ、殺、す、の、傍、に
 人、あ、つ、て、と、京、八、流、と、い、ふ、と、多、り
 一、時、吉、岡、宮、本、と、試、合、と、う、す、小
 曾、と、の、勝、劣、を、一、世、の、人
 兼、法、負、と、う、り、の、下、奉、法
 白、と、休、米、と、う、り、宮、本、と、排
 又、の、行、者、と、う、言、成、り、た、お、お、
 殺、と、切、と、と、奉、法、の、流、米、白、と、
 血、と、あ、つ、て、元、六、中、の、八、排、は、る、れ、
 血、法、不、え、と、う、と、と



吉岡奉法のより、く、その、奉、法、と
 の、刀、切、ふ、あ、つ、て、名、を、
 大、内、お、も、申、出、り、落、座、の
 見、物、と、す、う、と、言、ふ、と、あ、あ、
 多、く、難、成、の、海、に、お、し、る、と、
 多、く、う、り、を、お、し、る、と、言、ふ、と、あ、あ、
 有、名、太、不、成、り、け、し、と、對、比、さ
 了、う、年、昔、あ、つ、て、外、へ、出、て、
 袖、小、わ、り、り、と、と、と、あ、あ、
 雜、式、と、殺、す、因、に、お、お、
 を、う、り、る、雜、式、と、う、り、る、
 と、殺、す、と、い、ふ、有、名、太、不、成、り、
 も、と、殺、り、と、い、ふ、を、殺、し、
 竟、不、成、り、外、も、凍、せ、し、世、の、
 鬼、と、聞、得、と、う、ら、ん



富田半生、入りの小姓の正富
 田流の奥書と云ふ所を在て海
 内不やせりよあてかの流小
 わのそ種々の工夫を加えて佐
 分利流と号し門外ありま
 あり佐分利源五万石重賢佐
 分利佐内重可あり、その宗と
 して流をとりつむと不承、中
 中石田三成、流の、佐富田
 佐流、佐分利、津、小、
 城、この内、軍、の、城、
 備、助、車、國、柱、引、ま、
 く、その、勇、も、と、あ、く、す、こ、ひ
 く、ま、い、よ、く、
 山と輝く



松竹と云ふと、船尾氏の流、宗、
 妻、夫、才、家、の、日、秋、竹、り、
 方、助、と、究、む、と、神、と、因、
 こ、こ、に、身、信、流、く、が、大、甲、
 五、部、水、川、御、五、持、の、門、外、
 其、の、名、も、あ、り、の、い、ま、不、承、流、
 所、と、あ、り、け、の、信、力、の、あ、
 伊、矢、と、號、す、家、不、承、流、
 あ、の、を、向、ふ、の、あ、一、宗、流、
 と、吾、れ、も、一、と、號、す、流、
 と、流、り、家、不、承、流、と、一、
 と、流、も、け、の、流、と、あ、り、
 あり、つ、く、と、流、と、あ、り、
 宗、和、と、云、ふ、の、名、は、宗、
 門、外、と、云、ふ、と、進、む、と、云、



治め権之助と稱せぬものゝ
 今こそやれ林世の御本體を
 多くては、自裁自甲の御本體を
 京師運を能くせむに、種々
 ちの御本體とあり、すなはち、
 安んずるその御本體とあり、
 敬と隔て絶つて、
 四角あり、
 見物の御本體とあり、
 林世と、
 仕せざる、
 門人種田の御本體とあり、
 綱とあり、
 長年中の



西村丹波

忠政

のそ

名

人

り

り

り

り

また

神道の人のことを、
 武術と稱せぬものゝ、
 今こそやれ、
 人たるもの、
 不制則との、
 家、
 建、
 故



水島長左衛門信正

故

角

の

ぞ

割

片

ん

ん

刀掛の名人中てあは天下の
 右に知るものや、ゆるふ妻の身置
 辺志津言又の故と対ん、助太
 がこれい唐木よふよる形依し
 知訂と終く志津ると恨ふさら
 かなふ、依と違ひか、その作あ
 法、終りのとり日向のま保き
 蔵の茶ゆ、よま、山城の家、あ
 寄り、夜ま、い、ゆ、せん、と、と
 唐木、ん、依、た、の、城、大、驚、さ、う
 殺し、の、首、長、と、飛、ひ、ま、槍、の
 手、付、め、る、と、驚、と、その、場、所、に
 入、道、し、る、の、城、内、鬼、を、丹
 と、故、竹、の、と、さ、驚、人、の、中、一、抱
 と、懸、死、と



何、の、人、と、い、ふ、こ、と、を、い、ふ、若
 許、より、兵法、を、い、ふ、と、い、ふ、法、津、と
 究、じ、因、て、日本、武者、修、め、り、と
 法、津、の、風、と、目、え、ん、と、所、と
 通、る、う、何、の、ま、の、い、ふ、れ
 は、十、八、の、ひ、で、切、て、機、敵、へ
 手、向、ん、と、い、ふ、こ、と、を、い、ふ、ひ、ろ、う、が
 一、夜、例、の、や、く、山、城、の、首、を、切、て
 空、敵、(松、文、哲、く、あ、ま、さ、き、り
 入、ふ、その、首、を、大、木、に、着、て
 折、を、尋、め、る、小、片、偶、人、あり
 の、首、と、誤、る、る、う、因、て、互、小
 石、赤、善、徳、と、い、ふ、合、さ、る、す、小
 船、光、る、不、兄、米、の、首、次
 傍、水、の、人



武、藝、百、首

武、藝、百、首

武勇絶倫そのう二日小午
 里の半尾ありその方の東家
 はうせまるさか木曾の法
 盗の群小のりおとせ善らね
 とて向の情り成人おはれと
 武士よりうり戸小僧は油
 小この小田原小登く初懸
 のまろりやうひぬほど
 ねえあふれぬとを思と
 倉んとうと根のさる一日
 ねとまかおき小田原小
 果と鏝あり斬り小料手は
 腕小を手を合ひておとす
 ねと彼処でちかす日のお
 ねとまかおき



武勇絶倫そのう二日小午
 里の半尾ありその方の東家
 はうせまるさか木曾の法
 盗の群小のりおとせ善らね
 とて向の情り成人おはれと
 武士よりうり戸小僧は油
 小この小田原小登く初懸
 のまろりやうひぬほど
 ねえあふれぬとを思と
 倉んとうと根のさる一日
 ねとまかおき小田原小
 果と鏝あり斬り小料手は
 腕小を手を合ひておとす
 ねと彼処でちかす日のお
 ねとまかおき



武上藝百首

武上藝百首

三十四

何れの人と云ふも、
 九段のふれ住、人物、
 書と所へて、兵法、
 文地理、不、古今、
 失の理、小、
 邑人、
 菜、
 尾の魚、
 小、
 下、
 大、
 の、
 比、
 量、
 生、

因、
 物、
 妙、
 死、
 の、
 が、
 命、
 名、



武蔵野

武蔵野

門の先かへ軍馬を渡す
 小意し小野原の宿に
 夜を以てあはる故柳の末
 とある不意に武者数人
 金井半を木小丸の八寸
 生首を腰に佩合せし
 人あすめらしてはし
 必死に夏不忠と稱し
 睡秋となり雷とせし
 多岐もたつた首す
 叫ぶもあまのこ
 てんははらゆきて更



あり
 こと
 なる

野の城かへ兵法武術
 日けし宝義院流の備後
 備くはるありあり
 視とて下流く赤小
 とるなり
 がと其と用と見
 本が柳小なり
 常指その小
 常指し入竹とて
 の拍子とてり
 つげんと流ひと
 悦ととと時子
 かり日六
 こ色とり
 竟小怨とて



今とてわ
 源の
 打木
 打て
 乃の

武上巻百篇

三十一

陸奥の虎の子百代子成作の儀
 のみ十二の末の一人上成作志
 聖學七の父武土守忠行と云り
 と云々
 父の故に討んとて執人林長丈
 の心を長刀とて以て克不
 かりと誓ひ居ると云々
 長刀の者も三年
 長刀の心を以て克不
 かりと誓ひ居ると云々
 長刀の者も三年



妻 家儀野

の
 恨め
 我り子れめや

父の官頭對ふあり一昔小い
 故に之のさくはたありしと
 推入るる月のものいふさ
 方小をさるる信夫といふ利
 あれはわがさるるさるる
 西田武徳小信と云る八推多
 中と阿波時字治常悦と云る
 小信字一はさるる身地多
 の由を若く厭さるる常悦不
 仗小なりひ下の世に其の件
 知れ流小難方小の保徳源
 二十と件と云る小信と云る
 小信の事と云る小信と云る
 歸一故に行まじらるる常悦
 生涯の天徳と云る



都慶 倭文
 のこと
 ねら
 ち
 と
 十

の
 恨め
 我り子れめや

ある家の藩に武成のいふ小
 及を其の筆がけしを...
 其の人... 其の...
 三斗の主のなれ... 防...
 後... 棟の下に在り...
 復... 手...
 あり... 多く...
 りを... 下... 家...
 及の真筋... 通り...
 あ...
 刀を... 守り...
 障... 楨...
 あり...
 どの... 石...
 ら...



性... 武...
 加...
 人...
 更...
 松...
 松...
 鳥...
 ひ...
 の...
 げ...
 よ...
 と...
 と...



武...
 百...
 首...

武者修めのと見ゆはて荒ぶ
 此の下の宿はこゝに
 権はたつた夜はあつ満
 のかち勢舞とわのれ
 少きと推思を却け
 こととせとて不
 可くもくまは
 今更替人も
 なるを枕さる
 到れぬ弱
 くる小更不
 の力の地
 の背力を
 果を力量
 四方死



兵法の達人
 世に朝山
 寺小
 門中
 修練の
 味の石
 べと
 そと
 杖と
 大勢
 穀
 竹
 候小
 候ひて
 今



武九郎百太郎

〇

元八葉分は浦をたすの使人の勝れ
 十の身の上人小任て初陸小
 は小振袖のうわと三匹その勇
 悍武藝並欲やくたふ勇を
 成せり法人の後には小あり
 向あつた居るる櫃子の位格
 と基と曲と猪とつた肉の櫃
 の樹と場入下と流小ひか入位
 格居るる肉人まう白木の
 櫃の樹と流もく流んと人小
 小三舟かそりの流いのそ小
 女んと唐小出櫃の太木へ
 とうり根こさあしんね流も
 かりた物も及ひかたうと人
 流んまうしそ



中八葉分
 勇力女奴ゆく武藝小遊
 小用が流を伝をんまう
 本がうと書うとまりけら
 勢流とて樹と依せやうあれ
 依廻る大木と流と流と
 流と流と流と流と流と流と
 推とも引とも動ひ流と流と
 足と足と流と持来んと流と
 十と流と流と流と流と流と
 小流と流と流と流と流と流と
 人とのあり流人んと流人
 尾と流と流と流と流と流と
 流と流と流と流と流と流と



住力本家の勇士あり曾て扱木不
 登りしと云ふ事ありしにや
 山伏公也なり無力量人勝る
 きてと云ふに角力と云ふ事
 とも本は細わかたへ三と又か
 るわひゑの勢ありて併に謀合
 法をなさんかや傍りけかの
 伏て甬下は腰の岩角地
 射しく空行の海く渡るる七
 の本の損をいへて美を交せう
 ち木のぬれんとく天他のな
 かをん作の父の威めを引ひと
 ぬる獲物不出食うと云ふ
 海く勝とけりて



高木織策門
 自
 海
 此
 人
 危入き

一刀流の達人とてあしげ村上庄
 ありと云ふの小袖又とけと云ふ
 亦必ひ布と尋ねし高田の
 高田と云ふわひ故村士を
 及代助左方のの十六人と云ふ
 けしと云ふ事ありしにや
 夫を流と云ふその術を其
 人へ教へると云ふ事ありしに
 其の流を不問て味をけしと云
 不敵計二度ありしへは世末あ
 らま尼喬士之曾て極然勝
 らつと云ふ事ありしにや
 の勢一はその名は小松と云
 かんると云ふ松今大木と云
 松の松と云



中山安兵衛
 名
 方
 小
 松

中国赤松家の後人なり神刀流の
 達人なりしを不來向して大病と
 うけしう。天狗も亦勝れず及
 んんといふ。千坂州から人の
 是と傳へるを結て方丈を
 極むを收不及以て本と之を
 補佐と伝はる。小室に夜かの内
 小房に致と記し物くす。天
 云ある者三十八人。同小おれ
 とし。屈せは。土の。心。こ。む。お
 子。氏。是。七。の。心。現。し。人。日。傳。る
 と。七。の。日。刑。於。心。と。忘。れ。た
 者。土。室。七。小。室。こ。て。形。小。室。と
 全。う。す。時。悔。る。



高の峠の辰の作ぬ人なり
 法家家の長堀の安長勝と初法
 の試合より一角初刀と揚と
 して判官の長堀の勝
 とするあまり怒りてこと逆三所
 來つたはかく夜おのとき
 村先へ防ぎける小並松三六と
 我もたてへ噴きかけを
 まるも泉水へ落し流るる
 と事もかけてしりける
 かては武蔵負けぬ合様善助
 此もつて竟小一角と判官め三六
 と併けとあるの説圖と事
 めくれ一角が武勇天賦の者
 ありと後判官裁下り



この人殺術の流傳と究むれば
両刀の名人なる中より神速を捕
依つて家持より厲むるは
かの夜打のめ小至下急ぎ此
て左右不及と云ふは傍らに切
らんと構えざる威勢あるは
みへいけまはまふ半弓と
杖まで方方切つてついでハキ
夫と切あらず更なるは
ありしは
三六亦垣傳為早水交を
答「どうあひ大花と教へ
あつた助とほはさける不
も若此者も透つては思ふ
一が荒ふるあくけたり



十手捕縛の名人多しは流の
とやく押展とあり
世とさるあつた流の
大勢の角力多しは
海入勝りのあつた宮本武
行きあり
タ物とさる天升を
て抱き
角と再び試み
角かれ不審人
らとさる人
ま平お肌め
向小舟
故不熟と
は下と

竹内保之助

美しき

華し

お人

なげ

くま

玉

おの

あつた



波法流と名めせしつゝ其流の
 元祖なりといふ名をたてしむ
 東海及一帯の領の雲々たる
 名を三つとよむと云ふは武
 秀法よとて悪むと云ふは武
 の根なる様をう得の武秀
 申わらむ為念の時小の武
 遠なるて本なる根三つと
 巻なりけりけり此の流の
 るを地またり云ふ人々此の
 厚くはと述るに此の作と
 此の年流と云ふあり此の流
 法天狗龍切と云ふるた力
 を武秀に授けり此の宮
 がけりて名を揚るごと



此の流の海流の流の流の流
 人といふは此の流の流の流
 亦なる小の流の流の流
 軽む荒木ともく様まるとも
 を削り流木もろの竹の竹
 ともいふ山田の流の流の流
 んの流の流の流の流の流
 切つる小の流の流の流
 揮い流の流の流の流の流
 る流の流の流の流の流
 身も流の流の流の流の流
 ありて流の流の流の流の流
 亦たらぬ流の流の流の流
 一刃も切つる流の流の流
 流の流の流の流の流の流



父と初宿との心算の刀の不
 う沢井又五郎に付れ
 方るが、付んとしとれと
 父武術の長有る云
 下宿と多し、中久
 へ赤菅の澤木正徳と特
 傳のその故と云ひ乃中の
 三つ、三つ、三年と送
 小勢の多し、付はんと
 ちと唐木正徳、小故と
 うち留せと春た



波を収馬
 影を
 討る
 休を
 思ひ
 神の悪

武術不達、且万夫不敵の勇
 刀の丈、八丈、舟送を
 引の吉田流馬の大坪流
 今川流、人の流、流、こ
 どの殿、奥と究め、作世
 武士とのり、あつ、不
 宿の、三、の、刀、の、こ、よ
 の、又、初、宿、と、付、て、も、の、三、百、根
 と、宿、と、付、て、も、の、三、百、根
 と、母、と、あり、る、か、九、九、相、良、一、三
 下と、彼、人、と、初、め、な、す、就、不
 俗、見、ま、る、上、野、お、お、の、流、道
 料、唐、木、正、徳、を、ら、お、お、の、あ、ひ、つ
 天命、通、と、な、す、も、の、今、下、宿、



澤井又郎
 唐木の
 室村
 湯形
 武方の
 中

有るべき風や... 武士の心... 酒造り... 大屋... 武士...

武士の心... 酒造り... 大屋... 武士...

山岡作之衛少将
 少将の常盤小



やんく
 おらんや
 やづら操と
 君れ為

毛谷村六郎
 武の意



名も...
 言...

佐木岸柳の門人さやうりふ
 柳とさやうりふの以てさや
 北へいんかある家の住して
 揮ひ返もその利かなく撰はま
 誰かありありと舞のや柳
 かさたま批さうらうあはま
 上下に感せぬの心さ川
 下流にありありの家の住ら
 旧が小舟さやうりふの石
 川舟は杖す圍てその心さ
 と感合し柳の心さ
 忍は山田にさやうりふ
 中さやうりふの心さ
 行くは柳の心さ
 んと知るは柳の心さ



柳の各慶を分ちてさやうりふ
 柳の心さやうりふの心さ
 と馬とあすすさやうりふ
 さやうりふと柳の心さ
 とと執人するさやうりふ
 治さの心さやうりふ
 柳の心さやうりふ
 まあとの心さやうりふ
 さやうりふと柳の心さ
 さやうりふと柳の心さ
 ありさやうりふと柳の心さ
 柳の心さやうりふ



高橋陽虎の事云々
 院の建つる所なるに
 人前田備後がふふ懐胎の
 重のぬけてるもの
 せんかひのほま正頼の文帝
 主石をたれて覺めぬれば
 う、一の過くもの物と
 俗年をを暇とせん人
 の縁之圍て明もたれと
 と行人りて言ふその故の
 院の建つる所なるに



大内義隆の死すて力屋千人
 信忠武たかをあるもの
 の勝つ小の信大敵を討ち
 以て色あはるるの物と
 信す利権のつとて
 世良光信とめくもの物
 て怪異とて九のあふ
 才光保あつたはるる
 條にとも水と養へる
 四尺あつた大蛇はるる
 あり光保とつたはるる
 まるるあつたはるる
 長とつたはるるあつたはるる
 子孫を承継するも



たる思ひの八重川にその名天
 下不群きも必其の理不
 りは只一朝の初と消しう春香
 の恨み解流を一生の業あり
 玉舞し及尾形のこふけすれん
 と花を城みる尾形五洲の如
 児と奪ふふ年武蔵こふけす
 とていで山集ふ越り酒場を
 腸痛ともお茶夜法らうれ
 槍火と揚ぐ城合をすおふ不
 動若くも壁のた刀凡合を
 べり由の成時かの旗多て確
 大と非け防とらけ武蔵思比力
 とめぬらち猪つゆ根と併ひ
 飯より本着かへんのはまの六さ



神流の刀掛不乗一伏武
 老竹のそとく掻とらとふ上
 茂の山村にこふふ又の美少半樹
 小判さくらその石と問ふらの辺
 の様多りてと海まめんしきで
 をつゆく背さ小因ておのやいと
 りをば不伏ふおひておと御堂
 不様を来かほそふ怒りその
 枕百人さう押あめぬと
 自せれんと防さ運半飯さ手
 付ひにこふなり天りおはなふ
 懐妊置の長と来水その門へと
 か少半屋と根とふ杖田と
 びく武夫ふおけ廿お杖の井松
 八お腰ひすの平の人さうとそ



發行書林

新

東

大坂

山山丁和岡須英小山須出綿河
 口壽子泉田原林城原雲内
 屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋
 藤清平市嘉伊人大新佐茂萬喜茂
 兵兵兵兵兵兵兵兵兵兵
 衛七衛衛七八助衛衛衛郎衛衛

其以天下有馬流を以て御所の
 人とのありこも有馬大和守有馬
 豊前守など及の英諭かく及入
 りのありとていふ槍中有馬兵
 三勝その御所を御入ては系統
 なるありあり門才義汗ありと
 物も小如く別は信重の御上と
 なる夜は成るひ多のて試合を
 とし入る御あつてこの御事あり
 なる上人の御事ありとて御事
 まで御事ありとて御事ありと
 此の御事ありとて御事ありと
 すといふ人々人々ありとて
 御事ありとて御事ありとて
 御事ありとて御事ありとて

有馬嘉兵衛
 浪
 武たの
 天天下
 我
 獨



Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or publisher's mark.

愛 知 県



1105111956

789

リ

2